

参考様式A3(自己評価等関係)

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和4年2月14日

事業所名 ソレイユキッズ津

保護者等数(児童数) 22 回収数 19 割合 86 %

| | | チェック項目 | はい | どちらともいえない | いいえ | わからない | 今年のご意見 | ご意見を踏まえた対応 |
|----------|----|---|----|-----------|-----|-------|---------------------------------------|--|
| 環境・体制整備 | 1 | 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか | 17 | | | | | 運動療育ができる十分なスペースが確保されている。広すぎる場合はパーセーションなどで区切っている。 職員配置数は適切である。 |
| | 2 | 職員の配置数や専門性は適切であるか | 15 | | | | 2・何の教員免許を持っているか自己紹介がないので、適切かどうかわからない。 | 子どもの様子によっては職員が足りないと感じがあるため、日により配置数を増やしている。個々に応じてマンツーマンで対応している。 HPで職員の自己紹介を行っているが、ライン公式アカウント等を活用し、さらに保護者への周知を図ってきたい。 |
| | 3 | 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境*1になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか | 17 | | | | | 限られた環境の中でも、できる限り構造化や視覚支援を用いて、子どもたちにわかりやすいように配慮している。 |
| | 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか | 17 | | | | | 毎日活動前に清掃・消毒・喚起を行っており清潔に保たれている。運動を行うため、けがをしないようカバー・マットなど設置している。 |
| 適切な支援の提供 | 5 | 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画*2が作成されているか | 16 | | | 1 | | 保護者のニーズを聞き取った上で、責任者と担当者によるケース会議の元、6ヵ月ごとに個別支援計画書を作成している。職員同士で情報共有を行い、保護者にも何を目的にどういった支援を行っているのか、面談でわかりやすく説明している。 |
| | 6 | 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか | 15 | | | 2 | | 児童発達支援ガイドラインに基づき一人一人の子どもの発達段階や状況により必要な支援を選択し、その上で具体的な支援内容を設定している。具体的な内容について更にわかりやすく提示できるようにしていく。 |
| | 7 | 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか | 16 | | | 1 | | 個々の児童発達支援計画に基づき支援していく。 |
| | 8 | 活動プログラム*3が固定化しないよう工夫されているか | 17 | | | | | 運動プログラムについては3週間で変更し、残り1週はエアートランポリンを使った活動を行っている。手先を使った活動は、1週間に内容を変えてそれぞれの課題を決めて行っている。 |
| | 9 | 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか | 6 | 4 | | 7 | | 地域交流については、個別の活動を中心に行っているため、指導時間の中での実施は難しいが、今後実施していくよう検討していく。 |
| 保護者への説明等 | 10 | 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか | 17 | | | | | 契約時、詳細につき説明を行っているが、より周知できるよう適宜説明を行っていく。 |
| | 11 | 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか | 17 | | | | | 定期的に面談を行い、児童発達支援計画を示しながらわかりやすく支援内容について説明している。 |
| | 12 | 保護者に対して家族支援プログラム(ペアメント・トレーニング*4等)が行われているか | 12 | 2 | 1 | 1 | | 家庭で取り組みやすい方法を保護者と一緒に考え、提供している。応用行動分析学を用いた支援、アンガーマネジメント(書式作成の上)、フローチャートによるSSTのシートの利用などにより家庭支援を行っている。今後、コロナの終息と共に更に保護者向け勉強会の開催を計画していきたい。 |

| | | | | | | | | |
|----------|----|---|----|---|---|---|--|--|
| 保護者への説明等 | 13 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合って、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか | 15 | 2 | | | | 連絡帳や送迎時に伝えるようしているが、あまり話せる時間がない時もある。ラインでも共通理解を図れるようにしていきたい。 |
| | 14 | 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか | 15 | 2 | | | | 定期的に面談を行い、保護者に対して相談及び助言を行っている。ラインでの相談も隨時受け付けているが、より保護者に周知できるよう取り組んでいきたい。 |
| | 15 | 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか | 10 | 3 | 2 | 1 | コロナ禍なので、今はない方が良いと思います。 | 今年はコロナ感染症の拡大により実施できなかった。コロナの終息と共に研修・茶話会を実施し、勉強・交流の場としても提供していきたい。 |
| | 16 | 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか | 17 | | | | | 苦情・相談受付窓口の詳細は、契約書の重要事項説明書に記載している。苦情・相談が寄せられた場合は、迅速かつ適切に対応している。今年は更にラインでの相談受付も隨時行っている。 |
| | 17 | 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか | 16 | | | 1 | | ノートを活用し、意思の疎通や情報提供を行っているが、更にラインを活用し、保護者や子どもにとってよりわかりやすく活動内容を視覚的にも動画で知らせている。 |
| | 18 | 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか | 17 | | | | | 年に一度ホームページにて公表しているが、より周知できるよう3月の会報(毎月のおたより)にて保護者に知らせるようにしていきたい。行事予定は毎月のおたよりで、活動内容は週に一度ノートに貼って伝えている。コロナによる休校時よりライン公式アカウントを作成し、連絡・情報・相談を行っている。 |
| | 19 | 個人情報の取り扱いに十分注意されているか | 16 | | | 1 | | 個人情報に関しては、個々に個別ファイルを作成し、使用時以外は鍵付きの棚に保管することで外部に情報が漏れないように管理している。不要となった個人情報に関しては、適時シュレッダーにかけるなどの対応を徹底することで漏れがないように取り組んでいる。個々の情報については個別で対応を考えていきたい。 |
| 非常時等の対応 | 20 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。 | 15 | | | 2 | | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定している。事業所出入口に掲示し、又保護者に配布することで保護者への周知を図っている。 |
| | 21 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか | 11 | 2 | | 4 | | 月1回行っている 全ての曜日の子どもたちが避難訓練に参加できるようにしている。 |
| 満足度 | 22 | 子どもは通所を楽しみにしているか | 16 | 1 | | | | 来所すると楽しそうだが、疲れたり、気分次第では行き渋りが見られることもある 今後より楽しみになるよう、わかりやすく知らせていくようになる。 |
| | 23 | 事業所の支援に満足しているか | 17 | | | | ・保護者からの伝達が先生達(全て)に伝わっていない、内容が回ってないと感じることがある。 | 全ての職員に伝達できるよう更に努めていきたい。更に子どもたちが楽しく通えるよう一人一人に配慮し、今まで以上に満足して頂けるよう努めていく。 |

*1 この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすること。

*2 児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*3 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

*4 保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障がいの特性を踏まえた褒め方等を学ぶこと。子どもが適切な行動を獲得することを目標としている。

参考様式B3(自己評価等関係)

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公)

公表:令和4年2月14日

事業所名 ソレイユキッズ津

保護者等数(児童数) 71 回収数 52 割合 73 %

| | | チェック項目 | はい | どちらともいえない | いいえ | わからない | 今年のご意見 | ご意見を踏まえた対応 |
|----------|----|--|----|-----------|-----|-------|---|--|
| 環境・体制整備 | 1 | 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか | 51 | | | | 1 ・送ってもらっている動画を見たり体操の様子を見学したりした時に十分だと思いました。 | 運動療育ができる十分なスペースが確保されている。広すぎる場合はパーテーションなどで区切っている。 |
| | 2 | 職員の配置数や専門性は適切であるか | 44 | 4 | | | 4 ・子どもへの対応など、しっかり話を聞いてもらいました。 | 職員配置数は適切である。子どもの様子によっては職員が足りないと感じることがあるため、日々により配置数を増やし、個々に応じてマンツーマンで対応している。月に1~2回、事業所内研修、支援会議を行い、適宜外部研修(ZOOM)にも参加し、専門性の向上に努めている。 |
| | 3 | 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか | 39 | 2 | 2 | 9 | 9 ・スロープは見たことがない | 訓練室については、タイルカーペットを引き詰めており、大きい段差はない。 |
| 適切な支援の提供 | 4 | 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか | 50 | 1 | | | 1 ・体操や図工など手を使ったり、考えながらタワーを作ったり、自由な時間に友だちと遊んだり、よく考えてみえると思います。 | 保護者のニーズを聞き取った上で、責任者と担当者によるケース会議の元、6ヶ月ごとに個別支援計画書を作成しています。職員同士で情報共有を行い、保護者にも何を目的にどういった支援を行っているのか、面談でわかりやすく説明している。 |
| | 5 | 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか | 51 | | | | 1 | 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか |
| | 6 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか | 11 | 7 | 5 | 29 | 29 ・コロナで交流が難しいように思われる。 | 運動プログラムについては3週間で変更し、残り1週はエアートランポリンを使った活動を行っている。手先を使った活動は、1週間にごとに内容を変えそれぞれの課題を決めて行っている。 |
| 保護者への説明等 | 7 | 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか | 51 | 1 | | | 1 ・動画やタイムラインで支援の様子を送ってもらい分かりやすいです。 | 地域交流については、個別の活動を主に行っているため、指導時間の中での実施は難しいが、今後取り組みやすい方法で検討していきたい。 |
| | 8 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか | 50 | 1 | | | 1 ・送迎時に何をしたかどんな状況で対応してもらったか、子どもの様子も伝えてもらい安心します。 | 契約時、詳細につき説明を行っている。 |
| | 9 | 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか | 51 | | | | 1 ・不安に思ったこと、困ったことがあれば沢山話を聞いてもらい、どうしたら良いか対応してもらい、助言してもらっていると思います。 | 定期的に面談を行い、保護者に対して相談及び助言を行っている。ラインでの相談も随時受けつけているが、より保護者に周知できるよう取り組んでいきたい。 |
| 保護者への説明等 | 10 | 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか | 16 | 11 | 6 | 19 | 19 ・コロナ禍なので難しいと思う。(5人) | 今年はコロナ感染症の拡大により実施できなかった。コロナの終息と共に研修・茶話会を実施し、勉強・交流の場としても提供していきたい。 |
| | 11 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか | 42 | | | | 10 | 苦情・相談受付窓口の詳細は、契約書の重要事項説明書に記載している。苦情・相談が寄せられた場合は、迅速かつ適切に対応している。今年は更にラインでの相談受付も随時行っている。 |
| 保護者への説明等 | 12 | 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか | 48 | 2 | | | 2 | ノートを活用し、意思の疎通や情報提供を行っているが、更にラインを活用し、保護者や子どもにとってよりわかりやすく活動内容を視覚的にも動画で知らせている |

| | | | | | | | |
|---------|--|----|---|--|---|--|--|
| | 13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか | 49 | | | 3 | ・行事予定についてお知らせやタイムラインで送信してもらい分かりやすい。 | 年に一度ホームページにて公表しているが、より周知できるよう3月の会報(毎月のおたより)にて保護者に知らせるようにしていきたい。行事予定は毎月のおたよりで、活動内容は週に一度ノートに貼って伝えている。ライン公式アカウントにて、連絡・情報・相談を行っている。 |
| | 14 個人情報に十分注意しているか | 44 | 2 | | 6 | | 個人情報に関しては、個々に個別ファイルを作成し、使用時以外は鍵付きの棚に保管することで外部に情報が漏れないように管理している。不要となった個人情報に関しては、適時シュレッダーにかけるなどの対応を徹底することで漏れがないように取り組んでいる。個々の情報については個別で対応を考えていきたい。 |
| 非常時等の対応 | 15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか | 50 | 1 | | 2 | | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定している事業所出入り口に掲示し、又保護者に配布することで保護者への周知を図っている |
| | 16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか | 49 | | | 3 | | 月1回行っている 全ての曜日の子どもたちが避難訓練に参加できるようにしている。 |
| 満足度 | 17 子どもは通所を楽しみにしているか | 47 | 4 | | 1 | ・時々行くときに家で逃げるが、行くと楽しかったと帰つてくる。 ・年齢的に固いのが苦手な時期らしい。 ・曜日によって行き渋りがある気がする。 | 来所すると楽しそうだが、疲れたり、気分次第では行き渋りが見られることがある。今後、より楽しみになるよう、わかりやすく知らせていくようにする。 |
| | 18 事業所の支援に満足しているか | 52 | | | | ・とても助けていただいています。 ・いつもありがとうございます！親子共に困りごとがあるとその都度親切丁寧に対応していただいています。 ・毎回楽しそうに帰ってきます。これからもよろしくお願ひします。 | 更に子どもたちが楽しく通えるよう一人一人に配慮し、今まで以上に満足して頂けるよう努めていく |

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

参考様式A4(自己評価等関係)

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 4年2月14日

事業所名 ソレイユキッズ津

| | | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|----------|----|---|-----------------------|-----------------------|---|---|
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | <input type="radio"/> | | 指導訓練室は十分なスペースが確保されている活動によって、広すぎる場合はパーテーションなどで区切っている | 子どもによっては広すぎて落ち着かない様子が見られることがあるため、子どもの様子に合わせてスペースを作っていく |
| | 2 | 職員の配置数は適切である | <input type="radio"/> | | 職員配置数は適切であるが、必要に応じて配置数を増やしている | 職員配置数は適切であるが、日によって少ないと感じることもあるため、ゆとりのある職員配置数を確保していかたい |
| | 3 | 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている | <input type="radio"/> | | 限られた環境の中で、できる限り構造化や視覚支援を用いて、子どもたちにわかりやすいよう配慮している | 子どもの姿に応じ、更にわかりやすく構造化された環境を作っていく 玄関に少し段差があるが、スライドドアがあるため、必要に応じて開けるようにしている |
| | 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている | <input type="radio"/> | | 毎日活動前に清掃・消毒・換気を行っており清潔に保たれている運動をするため、けがをしないようカバー・マットなど設置している | 子どもの状態・活動に合わせてパーテーション等で空間を作っている マットや布団・ミラーボール等を使用しての居心地の良い環境づくりを行っているが、更に充実させていきたい コロナ対策と共に清潔を保つよう心がけていく |
| 業務改善 | 5 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している | <input type="radio"/> | | 活動前後にミーティングの時間を設けて話し合っている 定期的に業務内容について会議を行って見直している | PDCAサイクルに広く職員が参画できるよう、目標をわかりやすく設定し、定期的に振り返りを行うようにしていきたい |
| | 6 | 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | <input type="radio"/> | | 保護者アンケートより保護者の意向を把握し、業務改善に努めている | 保護者アンケートだけではなく、送迎時や面談時にも保護者が意見を伝えやすい雰囲気を作ることにより意向を把握し、業務改善につなげていきたい |
| | 7 | 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している | <input type="radio"/> | | ホームページで公開している | 今後も年1回、アンケートを実施し、評価を公開していく 評価の公開HPを会報やLINE等で知らせていく |
| | 8 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | | <input type="radio"/> | | 今後、検討していきたい |
| | 9 | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | <input type="radio"/> | | 月2回以上、必ず内部研修と支援会議を行っており、適宜外部研修にも参加し専門性の向上に努めている | 研修の年間計画を立てて、研修を行っている 実践に役立つような研修を行うようにし、職員の資質の向上を目指していく |
| 適切な支援の提供 | 10 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している | <input type="radio"/> | | 相談支援専門員と連携を図り、子どもや保護者との面談を通して得られたニーズを分析し、児童発達支援計画の作成を行っている より詳しく分析できるようアセスメントシートの適時修正を行っている | 様々な情報を基に、子どもの主な課題に対する支援を保護者と一緒に考えていく フェイスシートなどを更新し、新しい情報があれば職員間で共有していく |
| | 11 | 子どもの適応行動の状況を把握するためには、標準化されたアセスメントツールを使用している | <input type="radio"/> | | 項目に分かれた標準化されたアセスメントツールを使用し、子どもの適応行動の状況を把握できるようにしている | アセスメントツールを活用し、必要に応じて項目や活動の見直しを行い、個々に合わせた適切な支援へとつなげていく 必要があれば適時、アセスメントツールの見直しも行っていく |
| | 12 | 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている | <input type="radio"/> | | 児童発達支援ガイドラインに基づき一人一人の子どもの発達段階や状況により必要な支援を選択し、その上で具体的な支援内容を設定している | 児童発達支援ガイドラインに基づく考え方や具体的な支援の在り方については、今後もガイドラインの支援内容の理解を深め、さらに具体的な支援内容についてわかりやすく提示できるようにしていきたい |
| | 13 | 児童発達支援計画に沿った支援が行われている | <input type="radio"/> | | 個々の児童発達支援計画に基づき支援していく | 子ども一人一人の児童発達支援計画に基づき、職員、保護者で共通理解を図り、支援を行っていく |
| | 14 | 活動プログラムの立案をチームで行っている | <input type="radio"/> | | 年間計画を立て、担当職員を中心にチームで、運動プログラムは1ヶ月ごと、手先を使った活動は1週間ごとに立案している | ミーティングの機会を増やし、チームで話し合ってより良い立案ができるようにしていく 子どもたちの発達状況に合わせた内容となるよう活動プログラムを工夫するよう努めていく |
| 適切な支援の提供 | 15 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | <input type="radio"/> | | 運動プログラムについては3週間で変更し、残り1週はエアートランポリンを使った活動を行っている。手先を使った活動は、1週間ごとに内容を変えそれぞれの課題を決めて行っている | 子どもたちの発達状況に応じたプログラムを設定し、経験を通して興味、関心の拡大へと繋げていきたい |
| | 16 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している | <input type="radio"/> | | 相談支援専門員との連携やアセスメントツールを活用し、児童発達支援計画を作成している | 子どもの発育状況に応じて、個別活動、集団活動を適宜組み合わせていくようにする |

| | | | | |
|----|---|-----------------------|--|---|
| 17 | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | <input type="radio"/> | 利用する子ども、活動内容、支援の流れ、職員の役割分担の確認を行い、共通理解をしている | 子どもの通所人数、活動内容に応じた職員配置、利用する教材を含め打ち合わせを行っているが、全員の参加は難しいこともある 連携が取れていないこともありますため、ホワイトボード、SNSツール等も活用し、更に情報共有できるようにしていきたい |
| 18 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | <input type="radio"/> | 終礼にてその日の支援の振り返りや連絡事項などの確認を行い、職員同士情報共有しながら支援の記録も行っている | 支援の振り返り、子どもの姿、連絡事項など共通理解を深めているが、全員参加は難しいこともある ホワイトボード、SNSツール等を活用しながら情報共有を図っていきたい |
| 19 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | <input type="radio"/> | 毎回支援記録を取って見直し、子どもの成長や取り巻く環境の変化に合わせて支援内容や方法を検討している | 日々の支援記録を基に、モニタリングを実施し、児童発達支援計画の検証、改善に繋げていきたい |
| 20 | 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している | <input type="radio"/> | 定期的な面談を通してモニタリングを行い、支援の達成度や満足度などを把握し、支援の方向性の確認を行っている | 保護者と、子どもの成長を確認するとともに、見直しをすることにより子どもの発育状況に沿った支援ができるようにしていく |

| | | | | | |
|--------------|----|--|----------------------------------|--|---|
| | 21 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | <input type="radio"/> | 児童発達支援管理責任者がサービス担当者会議に参加し、利用計画書を基に他事業所と情報共有しながら、サービス等利用計画の策定への情報提供を行っている | 今後、子どもの状況に精通した担当職員なども一緒に参加することで、より一層の充実を図っていく |
| | 22 | 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている | <input type="radio"/> | 相談支援員を中心とし、必要に応じて担当者会議や電話連絡・紙面での情報共有を行っている | 子ども・子育て支援等の関係者や関係機関との連携した支援はまだあまりできていないため、今後、更なる連携を深めていきたい |
| 関係機関や保護者との連携 | 23 | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている | <input checked="" type="radio"/> | <input checked="" type="radio"/> | <input checked="" type="radio"/> |
| | 24 | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている | <input checked="" type="radio"/> | <input checked="" type="radio"/> | <input checked="" type="radio"/> |
| | 25 | 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている | <input type="radio"/> | 保育所や認定こども園、幼稚園から見学に来てもらう等、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている | 今年度はコロナ感染症対策により、相互間の訪問、見学はあまり行えなかったが、今後コロナの終息と共に情報共有と相互理解を更に進めていきたい |
| | 26 | 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている | <input type="radio"/> | 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解はまだ少ないが保護者を通して伝えていることはある 相談支援専門員を通して情報共有を行っている | 今後更に連携を取り、支援内容等の情報共有と相互理解を図っていきたい |
| | 27 | 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | <input type="radio"/> | 今年度はコロナ感染症対策により見学等の連携がほとんど図れなかったが、紙面での連携を行っていた | 他の児童発達支援事業所との連携を深めるため、会を発足して活動していたが、今年度はコロナ感染症の影響により連携があまり図れなかった ZOOMで会議を行うなど、できる限り再開していきたい |
| | 28 | 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある | <input type="radio"/> | 通所しているほとんどの子どもは既に地域の保育所・認定こども園・幼稚園に行っており、障がいのない子どもと活動する機会が多い | 今後、必要に応じて検討していく |
| | 29 | (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している | <input type="radio"/> | 参加可能な限り出席したいと思っているが、会議の参加要請がない | 今後ネットワークを広げて参加できるようにしていきたい |
| | 30 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | <input type="radio"/> | 自ごろからLINEを活用するなど、個別に子どもの状況について保護者と伝え合い共通理解を図っている | LINE公式アカウントを始めたことにより共通理解が深まったが、登録できない保護者もいた為、今後すべての保護者と共通理解を深められる方法を検討していきたい |
| | 31 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている | <input type="radio"/> | 家庭で取り組みやすい方法を保護者と一緒に考え、提供している 応用行動分析学を用いた支援、アンガーマネジメント(書式作成)、フローチャートによるSSTのシートの利用などにより家庭支援を行っている | 今後、動画配信なども活用し、よりわかりやすく家庭支援プログラムを進めていきたい |
| | 32 | 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | <input type="radio"/> | 契約時、詳細について説明を行っている | 日々周知されていない感じがあるため、その都度丁寧に説明を行っていきたい |
| | 33 | 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている | <input type="radio"/> | 定期的に面談を行い、児童発達支援計画を示しながらわかりやすく支援内容について説明し、同意を得ている | 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容についても、今後保護者に更にわかりやすく説明していきたい |
| 保護者への説明責任等 | 34 | 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | <input type="radio"/> | 定期的に面談を行い、保護者に対して相談及び助言を行っている ラインで、24時間相談受付を行い、営業時間内に助言等を行うこともある | 定期的に相談に応じてはいるが、子ども、保護者の様子によって必要と感じたときに適時行っている 今年度もLINEでの相談が多く、安心される保護者も多かった 今後も保護者のニーズに応じた適切な対応を心がけていきたい |
| | 35 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | <input type="radio"/> | 今年度はコロナ感染症の拡大により茶話会等は実施できなかった | コロナの終息と共に研修や茶話会を実施し、勉強、交流の場として提供していきたい |
| | 36 | 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している | <input type="radio"/> | 苦情・相談窓口の詳細は、契約書の重要事項説明書に記載し、苦情・相談が寄せられた場合は迅速かつ適切に対応できるよう取り組んでいる LINEメール等での相談受付も行えるようしている | 苦情・相談があったときは記録し、その後迅速に対応していく 対応については職員間で共通理解を図りながら進めていきたい |
| | 37 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | <input type="radio"/> | 活動概要や行事予定についておたよりを発行し、毎月利用者に紙面とLINEで発信している 活動内容は週に一度、連絡ノートに貼つたり、LINEで配信したりして伝えている | 紙面でのおたよりの発行にあわせて、LINEの配信をしている 活動概要、行事予定、連絡、子育てワンポイントアドバイスなども保護者に向けてわかりやすく発信していきたい LINEでのお便りの配信も積極的にしていきたい |

| | | | | |
|---------|---|-----------------------|--|---|
| | 38 個人情報の取り扱いに十分注意している | <input type="radio"/> | 個々に個別ファイルを作成し、使用時以外は鍵付きの棚に保管することで外部に情報が漏れないように管理している 不要となった個人情報に関しては、適時シュレッダーにかけるなどの対応を徹底することで漏れがないように取り組んでいる | 個人情報の取り扱いについては、引き続き周知徹底を図っていく |
| | 39 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | <input type="radio"/> | ノートやラインを活用し、意思の疎通や情報提供を行っている 動画配信等も行い、よりわかりやすく情報伝達できるようにしている | 今後、更に保護者の個々のニーズに応じて意思の疎通を図つていけるよう配慮していきたい |
| | 40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | <input type="radio"/> | オープン当初、地域住民を招待したが、その後は行っていない 自治会の組織に加入し地域住民と交流を図っている | 今後、コロナの終息と共に地域住民を招待する等、開かれた事業運営を図つていきたい |
| 非常時等の対応 | 41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している | <input type="radio"/> | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、事業所内に掲示、各保護者に配布し、周知できるようにしている | 保護者への周知が十分に実施できていない現状があるため、非常時のマニュアルを事業所内に掲示、各保護者に配布も行っている 掲示することで、来所した際にいつでも見ることができるように周知を図っていく |
| | 42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | <input type="radio"/> | 毎月、子どもたちと一緒に避難訓練を実施している | 今後、コロナの終息と共に地域の消防署・警察署の協力、アドバイスを頂きながらすすめていきたい |
| | 43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している | <input type="radio"/> | 契約時に子どもの疾病や服薬状況等を把握している てんかんについては保護者からどのような時にどのような状態になるのか聞き取りを行い、職員間で共通理解している 保護者からてんかん時の動画も見せてもらい、連絡先やその後の対応についても確認を行っている | より詳細を把握できるよう、アセメントツールを見直し定期的に確認も行えるようにしていきたい |
| | 44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | <input type="radio"/> | 契約時にアレルギーの検査結果や保護者からの聞き取りを行い、除去食を確認している アレルギー一覧を作成していくつても確認できるところに貼っている アレルギーがある場合は、一齊除去している | 食事提供はない為、医師の指示書での対応は行っていないが、保護者から聞き取りを行い、アレルゲンとなる食材がある場合は一齊除去を徹底していきたい |
| | 45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | <input type="radio"/> | 終礼や職員会議でヒヤリハット事例について書式を作成し、共通理解を図っている | ヒヤリハット事例を毎日確認し、研修を定期的に行うことで支援の質の向上を図つていきたい |
| | 46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | <input type="radio"/> | 虐待防止委員会にて年間計画を立て、毎月研修を行っている | チェックリストを作成、実施し、対応についても共通理解し、定期的にチェックを行うことで改善、防止に取り組んでいきたい |
| | 47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している | <input type="radio"/> | 現在、身体拘束は行っていない やむを得ず実施する場合は保護者への確認や説明なども確實に行い、支援計画に記載していくようにする | 常に検討しながらも必要がある際は、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で記載する書式を作成・記載し、児童発達支援計画にも記載していく |

参考様式B4(自己評価等関係)

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

公表: 4年2月14日

事業所名 ソレイユキッズ津

| | | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|----------|----|---|----|-----|--|--|
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | ○ | | 指導訓練室は十分なスペースが確保されている。活動によって、広すぎる場合はパーテーションなどで区切っている | 子どもによっては広すぎて落ち着かない様子が見られることがあるため、子どもの様子に合わせてスペースを作っていく |
| | 2 | 職員の配置数は適切である | ○ | | 職員配置数は適切であるが、必要に応じて配置数を増やしている | 職員配置数は適切であるが、日によって少ないと感じることもあるため、ゆとりのある職員配置数を確保していかたい |
| | 3 | 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている | ○ | | 指導訓練室については、タイルカーペットを敷き詰めてあり、大きい段差はない | 玄関に段差があるがスライドアがあり必要に応じて開けられるようにしている。 子どもの姿に応じ、わかりやすく構造化された環境を作っていく |
| 業務改善 | 4 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している | ○ | | 活動前後にミーティングの時間を設けて話し合っている 定期的に業務内容について会議を行って見直している | PDCAサイクルに広く職員が参画できるよう、目標をわかりやすく設定し、定期的に振り返りを行うようにしていかたい |
| | 5 | 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | ○ | | 保護者アンケートより保護者の意向を把握し、業務改善に努めている | 保護者アンケートだけではなく、送迎時や面談時にも保護者が意見を伝えやすい雰囲気を作ることにより意向を把握し、業務改善につなげていきたい |
| | 6 | この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか | ○ | | ホームページで公開している | 今後も年1回、アンケートを実施し、評価を公開していく 評価の公開HPを会報やLINE等で知らせていく |
| 適切な支援の提供 | 7 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | | ○ | | 今後、検討していかたい |
| | 8 | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | ○ | | 月に2回以上必ず内部研修、支援会議を行い、適宜外部研修にも参加し、専門性の向上に努めている | 研修の年間計画を立てて、研修を行っている 実践に役立つような研修を行うようにし、職員の資質の向上を目指していく |
| | 9 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している | ○ | | 相談支援専門員と連携を図り、子どもや保護者との面談を通して得られたニーズを分析し、児童発達支援計画の作成を行っている より詳しく分析できるようアセスメントシートの適時修正を行っている | 様々な情報を基に、子どもの主な課題に対する支援を、保護者と一緒に考えていく フェイスシート等を更新し、新しい情報があれば職員間で共有していく |
| 適切な支援の提供 | 10 | 子どもの適応行動の状況を把握するためには、標準化されたアセスメントツールを使用している | ○ | | 項目に分かれた標準化されたアセスメントツールを使用し、子どもの適応行動の状況を把握できるようにしている | アセスメントツールを活用し、必要に応じて項目や活動の見直しを行い、個々に合わせた適切な支援へとつなげていく 必要があれば適時、アセスメントツールの見直しも行っていく |
| | 11 | 活動プログラムの立案をチームで行っている | ○ | | 年間計画を立て、担当職員を中心にしてチームで、運動プログラムは1ヶ月ごと、手先を使った活動は1週間ごとに立案している | ミーティングの機会を増やし、チームで話し合ってより良い立案ができるようにしていく 子どもたちの発達状況に合わせた内容となるよう活動プログラムを工夫するよう努めしていく |
| | 12 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | ○ | | 運動プログラムについては3週間で変更し、残り1週はエアートランポリンを使った活動を行っている 手先を使った活動は、1週間ごとに内容を変えそれぞれの課題を決めて行っている | 子どもたちの発達状況に応じたプログラムを設定し、経験を通して興味、関心の拡大へと繋げていきたい |
| 適切な支援の提供 | 13 | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している | ○ | | 平日用プログラム、休日、長期休暇用プログラムを設定し、それぞれの課題を決めて支援している | 平日・休日・長期休暇、また個々の子どもの発育状況に応じた課題を設定していくよう、職員間で話し合っていかたい |
| | 14 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している | ○ | | 相談支援専門員との連携やアセスメントツールを活用し、児童発達支援計画を作成している | 子どもの発育状況に応じて、個別活動、集団活動を適宜組み合わせていく |
| | 15 | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | ○ | | 利用する子ども、活動内容、支援の流れ、職員の役割分担の確認を行い、共通理解をしている | 子どもの通所人数、活動内容に応じた職員配置、利用する教材を含め、打ち合わせを行っているが、全員の参加は難しいこともある 連携が取れないこともあるため、ホワイトボードやSNSツール等を活用し、更に情報共有していかたい |
| 適切な支援の提供 | 16 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | ○ | | 終礼にてその日の支援の振り返りや連絡事項などの確認を行い、職員同士情報共有しながら支援の記録も行っている | 支援の振り返り、子どもの姿、連絡事項など共通理解を深めているが、全員参加は難しいこともある ホワイトボードやSNSツール等を活用しながら情報共有を図っていかたい |
| | 17 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | ○ | | 毎回支援記録を取って見直し、子どもの成長や取り巻く環境の変化に合わせて支援内容や方法を検討している | 日々の支援記録を基に、モニタリングを実施し、支援計画の検証、改善に繋げていきたい |

| | | | | | | |
|--|----|---------------------------------------|-----------------------|--|--|---|
| | 18 | 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している | <input type="radio"/> | | 定期的な面談を通してモニタリングを行い、支援の達成度や満足度などを把握し、支援の方向性の確認を行っている | 保護者と、子どもの成長を確認するとともに、見直しをすることにより子どもの発育状況に沿った支援ができるようにしていく |
| | 19 | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている | <input type="radio"/> | | 一日のプログラムの中で、ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている | 自立支援と日常生活の充実のための活動・創作活動・余暇の提供については組み合わせて行っているが地域交流については、なかなか交流が図れないため、今後交流を検討していきたい |

| | | | | | |
|--------------|----|--|---|--|---|
| 関係機関や保護者との連携 | 20 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | ○ | 児童発達支援管理責任者がサービス担当者会議に参加し、利用計画書を基に他事業所と情報共有しながら、サービス等利用計画の策定への情報提供を行っている | 今後、子どもの状況に精通した担当職員なども一緒に参加することで、より一層の充実を図っていく |
| | 21 | 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子供の下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている | ○ | 在籍校に電話をし、送迎時の注意事項や下校時刻を聞いている 行事予定など、FAXで連絡してもらう場合もある | 今後は、年間計画など詳しい情報を様々な手段で共有できるようにしていく |
| | 22 | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている | △ | △ | △ |
| | 23 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所との間で情報共有と相互理解を務めている | ○ | 相談支援専門員を通して、児童発達支援事業所、保育所、幼稚園とも少しずつ情報共有と相互理解を進めている | まだ就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園等との間での連携は少ないため、今後更に連携を取れるよう図っていきたい |
| | 24 | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している | ○ | まだ該当者なし | 今後、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所へ移行する場合は、それまでの支援内容等の情報を提供していきたい |
| | 25 | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | ○ | 今年度もコロナ感染症により見学等の連携がほとんど図れなかつたが、紙面での連携を行っていた | 他の児童発達支援事業所との連携を深めるため、会を発足して活動していたが、今年度はコロナ感染症の影響により連携があまり図れなかつた ZOOMで会議を行うなど、できる限りで再開していきたい |
| | 26 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある | ○ | 地域交流については小集団での活動を主に行っているため、指導時間の中での実施は難しい | 放課後児童クラブや児童館との交流、障がいのない子どもとの交流や、障がいのない子どもと活動する機会はまだないため、今後交流していきたい コロナ感染症の影響により実施できなかつたが、今後終息とともに企画・実施していきたい |
| | 27 | (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している | ○ | 参加可能な限り出席したいと思っているが、会議の参加要請がない | どのように参加できるかわからないため、今後ネットワークを広げて参加できるよう働きかけていきたい |
| | 28 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | ○ | 日ごろからLINEを活用するなど、個別に子どもの状況について保護者と伝え合い共通理解を図っている | LINE公式アカウントを始めたことにより共通理解が深まつたが、登録できない保護者もいた為、今後すべての保護者と共通理解を深められる方法を検討していきたい |
| | 29 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている | ○ | 家庭で取り組みやすい方法を保護者と一緒に考え、提供している 応用行動分析学を用いた支援、アンガーマネジメント(書式作成)、フローチャートによるSSTのシートの利用などにより家庭支援を行っている | 今後動画配信なども活用し、よりわかりやすく家庭支援プログラムを進めていきたい |
| 保護者への説明責任等 | 30 | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | ○ | 契約時、詳細について説明を行っている | 時々周知されていないと感じことがあるため、その都度丁寧に説明を行っていきたい |
| | 31 | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | ○ | 定期的に面談を行い、保護者に対して相談及び助言を行っている ラインで24時間相談受付を行い、営業時間内に相談・助言等を行うこともある | 定期的に相談に応じてはいるが、子ども、保護者の様子によって必要と感じたときに適時行っている 今年度もLINEでの相談が多く、安心される保護者も多かつた 今後も保護者のニーズに応じた適切な対応を心がけていきたい |
| | 32 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | ○ | 今年度はコロナ感染症の拡大により茶話会等は実施できなかつた | コロナの終息と共に研修や茶話会を実施し、勉強、交流の場として提供していきたい |
| | 33 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している | ○ | 苦情・相談窓口の詳細は、契約書の重要事項説明書に記載している。苦情・相談が寄せられた場合は、迅速かつ適切に対応できるように取り組んでいる LINE、メール等での相談受付も行えるようにしている | 苦情・相談があったときは記録し、その後迅速に対応していく 対応については職員間で共通理解を図りながらすすめていきたい |
| | 34 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | ○ | 活動概要や行事予定についておたよりを発行し、毎月利用者に紙面とLINEで発信している 活動内容は週に一度、連絡ノートに貼ったり、LINEで配信したりして伝えていく | 紙面でのおたよりの発行にあわせてLINEの配信をしている 活動概要、行事予定、連絡、子育てワンポイントアドバイスなどを保護者に向けてわかりやすく発信していきたい LINEでのおたよりの配信も積極的にしていきたい |
| | 35 | 個人情報に十分注意している | ○ | 個々に個別ファイルを作成し、使用時以外は鍵付きの棚に保管することで外部に情報が漏れないように管理している 不要となった個人情報に関しては、適時シュレッダーにかけるなどの対応を徹底することで漏れがないように取り組んでいる | 個人情報の取り扱いについては、引き続き周知徹底を図っていく |
| | 36 | 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | ○ | ノートやLINEを活用し、意思の疎通や情報提供を行っている 動画配信等も行い、よりわかりやすく情報伝達できるようにしている | 今後、更に保護者の個々のニーズに応じて意思の疎通を図っていけるよう配慮していきたい |
| | 37 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | ○ | オープン当初、地域住民を招待したが、その後は行っていない 自治会の組織に加入し地域住民と交流を図っている | 今後、コロナの終息と共に地域住民を招待し、開かれた事業運営を図っていきたい |

| | | | | | | |
|---------|----|--|-----------------------|--|---|--|
| 非常時等の対応 | 38 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している | <input type="radio"/> | | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、事業所内に掲示、各保護者に配布し、周知できるようにしている | 保護者への周知が十分に実施できていない現状があるため、非常時のマニュアルを事業所内に掲示、各保護者に配布も行っている 掲示することで、来所した際にいつでも見ことができるように周知を図っていく |
| | 39 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | <input type="radio"/> | | 毎月、子どもたちと一緒に避難訓練を実施している | 今後、コロナの終息と共に地域の消防署、警察署の協力、アドバイスを頂きながらすすめていきたい |
| | 40 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | <input type="radio"/> | | 虐待防止委員会にて年間計画を立て、毎月研修を行っている | チェックリストの作成、実施し対応についても共通理解し、定期的にチェックを行うことで改善、防止に取り組んでいきたい |
| | 41 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している | <input type="radio"/> | | 現在、身体拘束は行っていない。やむを得ず実施する場合は保護者への確認や説明なども確実に行い支援計画に記載していく | 常に検討しながらも必要がある際は、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で記載する書式を作成・記載し、児童発達支援計画にも記載していく |
| | 42 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | <input type="radio"/> | | 契約時にアレルギーの検査結果や保護者からの聞き取りを行い、除去食を確認している。アレルギー表を作成しいつても確認できるところに貼っている。アレルギーがある場合は、一斉除去している | 食事提供はない為、医師の指示書での対応は行ってないが、保護者から聞き取りを行い、アレルゲンとなる食材がある場合は一斉除去を徹底していきたい。 |
| | 43 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | <input type="radio"/> | | 終礼や職員会議でヒヤリハット事例について書式を作成し、共通理解を図っている | ヒヤリハット事例を毎日確認し、研修を定期的に行うことで支援の質の向上を図っていきたい |

参考様式A3(自己評価等関係)

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和4年2月14日

事業所名 ソレイユキッズ津Neo 保護者等数(児童数) 14(14) 回収数 10 割合 71.4%

| | | チェック項目 | はい | どちらともいえない | いいえ | わからない | ご意見 | ご意見を踏まえた対応 |
|----------|----|---|----|-----------|-----|-------|-----|---|
| 環境・体制整備 | 1 | 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか | 10 | | | | | 運動療育ができる十分なスペースが確保されている。広すぎる場合はパーテーションなどで区切っている |
| | 2 | 職員の配置数や専門性は適切であるか | 7 | 1 | | 2 | | 職員配置数は適切である。子どもの様子によっては職員が足りないと感じることがあるため、日により配置数を増やしている。個々に応じてマンツーマンで対応している。月に1~2回、事業所内研修、支援会議を行い、適宜外部研修(zoom)にも参加し、専門性の向上に努めている |
| | 3 | 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境*1になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか | 8 | | | 2 | | 限られた環境の中で、できる限り構造化や視覚支援を用いて、子どもたちにわかりやすいように配慮している |
| | 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか | 10 | | | | | 毎日活動前に清掃・消毒・換気を行っており清潔に保たれている。運動をするため、けがをしないようカバー・マットなど設置している |
| 適切な支援の提供 | 5 | 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画*2が作成されているか | 10 | | | | | 保護者のニーズを聞き取った上で、責任者と担当者によるケース会議の元、6ヵ月ごとに個別支援計画書を作成している。職員同士で情報共有を行い、保護者にも何を目的にどういった支援を行っているのか、面談でわかりやすく説明している |
| | 6 | 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか | 9 | | | 1 | | 児童発達支援ガイドラインに基づき一人一人の子どもの発達段階や状況により必要な支援を選択し、その上で具体的な支援内容を設定している。具体的な内容について更にわかりやすく提示できるようにしていく |
| | 7 | 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか | 10 | | | | | 個々の児童発達支援計画に基づき支援していく |
| | 8 | 活動プログラム*3が固定化しないよう工夫されているか | 10 | | | | | 運動プログラムについては3週間で変更し、残り1週はエアートランポリンを使った活動を行っている。手先を使った活動は、1週間ごとに内容を変えてそれぞれの課題を決めて行っている |
| | 9 | 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか | | 2 | | 8 | | 地域交流については、個別の活動を主に行っているため、指導時間の中での実施は難しいが、今後実施していくよう検討していきたい |
| | 10 | 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか | 10 | | | | | 契約時、詳細につき説明を行っているが、より周知できるよう適宜説明を行っていく |

| | | | | | | | | |
|----------|----|---|----|---|---|---|--|---|
| 保護者への説明等 | 11 | 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか | 9 | | | 1 | | 定期的に面談を行い、児童発達支援計画を示しながらわかりやすく支援内容について説明している |
| | 12 | 保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング*4等）が行われているか | 5 | 1 | | 4 | | 家庭で取り組みやすい方法を保護者と一緒に考え、提供している 応用行動分析学を用いた支援、アンガーマネジメント（書式作成）の上、フローチャートによるSSTのシートの利用などにより家庭支援を行っている 今後、コロナの終息と共に保護者向け勉強会の開催を計画していく |
| | 13 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか | 10 | | | | | 連絡帳や送迎時に伝えるようしているが、あまり話せる時間がない時もある 今後共通理解ができるような時間を設けていきたい。またLINEでも共通理解を図れるようにしていく |
| | 14 | 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか | 10 | | | | | 定期的に面談を行い、保護者に対して相談及び助言を行っている。LINEでの相談も随時受け付けているがより保護者に周知できるよう取り組んでいきたい |
| | 15 | 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか | 3 | | 3 | 4 | | 今年はコロナ感染症の拡大により実施できなかった。コロナの終息と共に研修・茶話会を実施し、勉強・交流の場として提供していきたい |
| | 16 | 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか | 10 | | | | | 苦情・相談受付窓口の詳細は、契約書の重要事項説明書に記載している 苦情・相談が寄せられた場合は、迅速かつ適切に対応している。更にLINEでの相談受付も行っている |
| | 17 | 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか | 10 | | | | | ノートを活用し、意思の疎通や情報提供を行っているが、更にLINEを活用し子どもや保護者にとって視覚的にもよりわかりやすくするために、活動内容を動画や写真で知らせている |
| | 18 | 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか | 10 | | | | | 年に一度ホームページにて公表しているが、より周知できるよう3月の会報（毎月のおたより）にて保護者に知らせるようしていきたい 行事予定は毎月のおたよりで、活動内容は週に一度ノートに貼って伝えている。LINE公式アカウントにより個々の連絡・情報・相談を行っている |
| | 19 | 個人情報の取り扱いに十分注意されているか | 10 | | | | | 個々に個別ファイルを作成し、使用時以外は鍵付きの棚に保管することで外部に情報が漏れないように管理している 不要となった個人情報に関しては、適時シュレッダーにかけるなどの対応を徹底することで漏れがないように取り組んでいる |
| | 20 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。 | 9 | | | 1 | | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定している。事業所出入口に掲示し、配布もして保護者への周知を行っている |
| 非常時等の対応 | 21 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか | 7 | | | 3 | | 月1回行っている 全ての曜日の子どもたちが避難訓練に参加できるようにしている |

| | | | | | | | |
|-----|----|------------------|----|---|---|--------------------------|--|
| 満足度 | 22 | 子どもは通所を楽しみにしているか | 8 | 1 | 1 | | 来所すると楽しそうだが、疲れていたり、気分次第では行き渋りが見られることもある。今後より楽しみになるよう、わかりやすく知させていくようにする |
| | 23 | 事業所の支援に満足しているか | 10 | | | ・週1よりは週2~3で通所できるとありがたいです | 更に子どもたちが楽しく通えるよう一人一人に配慮し、今まで以上に満足して頂けるよう努めていきたい |

*1 この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすること。

*2 児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*3 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

*4 保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障がいの特性を踏まえた褒め方等を学ぶこと。子どもが適切な行動を獲得することを目標としている。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公)

公表:令和4年2月14日

事業所名 ソレイユキッズ津Neo 保護者等数(児童数) 78(80) 回収数 52 割合 66.6%

| | チェック項目 | はい | どちらともいえない | いいえ | わからない | ご意見 | ご意見を踏まえた対応 |
|----------|--|----|-----------|-----|-------|--|---|
| 環境・体制整備 | 1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか | 51 | | | 1 | | 運動療育をできる十分なスペースが確保されている。広すぎる場合はパーテーションなどで区切っている |
| | 2 職員の配置数や専門性は適切であるか | 45 | 2 | | 5 | ・日によってスタッフの数が少なく利用者が多いなと思います。そういった点で目が届くのか心配なことはあります | 職員配置数は適切である。子どもの様子によっては職員が足りないと感じることがあるため、日により配置数を増やしている。個々に応じてマンツーマンで対応している。スタッフの専門性を表す資格、経験など掲示して安心していただけるよう努めていく |
| | 3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか | 37 | 3 | | 11 | ・駐車場が危ない | 送迎時間を分けることで安全確保を行っている。送迎時には職員が駐車場の様子を見に行くようにするなど更なる努力をしていく |
| 適切な支援の提供 | 4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか | 52 | | | | | 保護者のニーズを聞き取った上で、責任者と担当者によるケース会議の元、6ヵ月ごとに個別支援計画書を作成している。職員同士で情報共有を行い、保護者にも何を目的にどういった支援を行っているのか、面談でわかりやすく説明している |
| | 5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか | 52 | | | | | 運動プログラムについては3週間で変更し、残り1週はエアートランポリンを使った活動を行っている。手先を使った活動は、1週間ごとに内容を変えそれぞれの課題を決めて行っている |
| | 6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか | 10 | 4 | 6 | 32 | ・学校でとても頑張っているので別に交流なくてよいです ・学校で他の子どもと接する機会があるのでデイでの交流は特に希望ありません | 地域交流については、個別の活動を行っているため、指導時間の中での実施は難しいが、今後取り組みやすい方法で検討ていきたい |
| 支援の実施 | 7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか | 52 | | | | | 契約時、詳細につき説明を行っている |
| | 8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか | 52 | | | | ・子どもの様子に加え、こう言ったら切りかえられた、こう支援したらスムーズにできた等具体的に教えてもらえるので家庭でも参考になります | 連絡帳や送迎時に伝えるようにしているが、あまり話せる時間がないときもある。今後共通理解ができるような時間を設けていきたい。またLINEでも共通理解を図れるようにしていきたい |
| | 9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか | 52 | | | | ・ソレイユさんの面談は本当に貴重な時間と思っています | 定期的に面談を行い、保護者に対して相談及び助言を行っている。LINEでの相談も隨時受け付けているが、より保護者に周知できるよう取り組んでいきたい |
| | 10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか | 13 | 10 | 6 | 23 | ・コロナの関係で仕方がないと思っています ・保護者同士のお茶会を開催していただけるのを楽しみにしています | 今年はコロナ感染症の拡大により実施できなかった。コロナの終息とともに研修・茶話会を実施し、勉強・交流の場として提供するなど、保護者同士の交流支援を行っていきたい |

| | | | | | | |
|----------|---|----|---|---|---|---|
| 保護者への説明等 | 11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備とともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか | 38 | 3 | | 11 ·過去に(気になることがあったときに)はとてもスピーディーに対応してください助かりました | 苦情・相談受付窓口の詳細は、契約書の重要事項説明書に記載している 苦情・相談が寄せられた場合は、迅速かつ適切に対応している。更にLINEでの相談受付も随時行っている |
| | 12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか | 51 | | | 1 ·毎回詳しくお話をしてくれるので本当に安心です。 | ノートを活用し、意思の疎通や情報提供を行っているが、更にLINEを活用し、子どもや保護者にとって視覚的によりわかりやすくなるよう、活動内容を動画や写真で知らせている |
| | 13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか | 52 | | | ·ラインでやり取りできるので楽です ·療育や内容も写真や動画でわかりやすいです | 年に一度ホームページにて公表しているがより周知できるよう3月の会報(毎月のおたより)にて保護者に知らせるようにしていきたい。行事予定は毎月おたよりで、活動内容は週に一度ノートに貼って伝えている。LINE公式アカウントにより個々の連絡・情報・相談を行なっている |
| | 14 個人情報に十分注意しているか | 48 | | 4 | | 個々に個別ファイルを作成し、使用時以外は鍵付きの棚に保管することで外部に情報が漏れないように管理している 不要となった個人情報に関しては、適時シュレッダーにかけるなどの対応を徹底することで漏れがないように取り組んでいる |
| 非常時等の対応 | 15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか | 46 | | 5 | | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定している。事業所出入口に掲示し、配布もして保護者への周知を行っている |
| | 16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか | 45 | | 6 | | 月1回行っている 全ての曜日の子どもたちが避難訓練に参加できるようにしている |
| 満足度 | 17 子どもは通所を楽しみにしているか | 48 | 3 | | 1 ·本当に楽しそうな幸せそうな表情です | 来所すると楽しそうだが、疲れていたり、気分次第では行き渋りが見られることがある 今後、より楽しみになるよう、わかりやすく知らせていくようする |
| | 18 事業所の支援に満足しているか | 51 | 1 | | ·いつもご支援ありがとうございます。今後も変わらずよろしくお願いいいたします ·週2で通所できるとありがたいです | 更に子どもたちが楽しく通えるよう一人一人に配慮し、今まで以上に満足して頂けるよう努めていく |

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年2月14日

事業所名 ソレイユキッズ津 Neo

| | | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|----------|----|--|-----------------------|-----|---|--|
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | <input type="radio"/> | | 指導訓練室は十分なスペースが確保されている。活動によって、広すぎる場合はパーテーションなどで区切っている | 子どもによっては広すぎて落ち着かない様子が見られることがあるため、子どもの様子に合わせてスペースを作っていく |
| | 2 | 職員の配置数は適切である | <input type="radio"/> | | 職員配置数は適切であるが、必要に応じて配置数を増やしている | 職員配置数は適切であるが、日によって少ないと感じることもあるため、ゆとりのある職員配置数を確保していかたい |
| | 3 | 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている | <input type="radio"/> | | 限られた環境の中で、できる限り構造化や視覚支援を用いて、子どもたちにわかりやすいよう配慮している | 子どもの姿に応じ、更にわかりやすく構造化された環境を作っていく。玄関に少し段差があるが、必要に応じ、スライドドアが使用できるようにしてある。トイレに段差があるがステップを置いて対応している |
| | 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている | <input type="radio"/> | | 毎日活動前に清掃・消毒・換気を行っており清潔に保たれている。運動をするため、けがをしないようカバー・マットなど設置している | 子どもの状態・活動に合わせてパーテーション等で空間を作っている。マットや布団・ミラーボール等を使用しての居心地の良い環境づくりを行っているが、更に充実させていきたい。コロナ対策と共に清潔を保つよう心がけていく |
| 業務改善 | 5 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している | <input type="radio"/> | | 活動前後にミーティングの時間を設けて話し合っている。定期的に業務内容について会議を行って見直している | PDCAサイクルに広く職員が参画できるよう、目標をわかりやすく設定し、定期的に振り返りを行うようにしていきたい |
| | 6 | 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | <input type="radio"/> | | 保護者アンケートより保護者の意向を把握し、業務改善に努めている | 保護者アンケートだけではなく、送迎時や面談時にも保護者が意見を伝えやすい雰囲気を作ることにより意向を把握し、業務改善につなげていきたい |
| | 7 | 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している | <input type="radio"/> | | ホームページで公開している | 今後も年1回、アンケートを実施し、評価を公開していく。評価の公開HPを会報やLINE等で知らせていく |
| | 8 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | <input type="radio"/> | | | 今後、検討していきたい |
| | 9 | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | <input type="radio"/> | | 月2回以上、必ず内部研修と支援会議を行い、適宜外部研修にも参加し専門性の向上に努めている | 研修の年間計画を立てて、研修を行っている。実践に役立つような研修を行うようにし、職員の資質の向上を目指していく |
| 適切な支援の提供 | 10 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している | <input type="radio"/> | | 相談支援専門員と連携を図り、子どもや保護者との面談を通して得られたニーズを分析し、児童発達支援計画の作成を行っている。より詳しく分析できるようアセスマントシートの適時修正を行っている | 様々な情報を基に、子どもの主な課題に対する支援を保護者と一緒に考えていく。フェイスシートなどを更新し、新しい情報があれば職員間で共有していく |
| | 11 | 子どもの適応行動の状況を把握するためには、標準化されたアセスメントツールを使用している | <input type="radio"/> | | 項目に分かれた標準化されたアセスメントツールを使用し、子どもの適応行動の状況を把握できるようにしている | アセスメントツールを活用し、必要に応じて項目や活動の見直しを行い、個々に合わせた適切な支援へとつなげていく。必要があれば適時、アセスメントツールの見直しも行っていく |
| | 12 | 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている | <input type="radio"/> | | 児童発達支援ガイドラインに基づき一人一人の子どもの発達段階や状況により必要な支援を選択し、その上で具体的な支援内容を設定している | 児童発達支援ガイドラインに基づく考え方や具体的の支援の在り方については、今後もガイドラインの支援内容の理解を深め、さらに具体的な支援内容についてわかりやすく提示できるようにしていきたい |
| | 13 | 児童発達支援計画に沿った支援が行われている | <input type="radio"/> | | 個々の児童発達支援計画に基づき支援していく | 子ども一人一人の児童発達支援計画に基づき、職員、保護者で共通理解を図り、支援を行っていく |
| | 14 | 活動プログラムの立案をチームで行っている | <input type="radio"/> | | 年間計画を立て、担当職員を中心にチームで、運動プログラムは1ヶ月ごと、手先を使った活動は1週間ごとに立案している | ミーティングの機会を増やし、チームで話し合ってより良い立案ができるようにしていく。子どもたちの発達状況に合わせた内容となるよう活動プログラムを工夫するよう努めていく |
| | 15 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | <input type="radio"/> | | 運動プログラムについては3週間で変更し、残り1週はエアートランポリンを使った活動を行っている。手先を使った活動は、1週間に内容を変えそれぞれの課題を決めて行っている | 子どもたちの発達状況に応じたプログラムを設定し、経験を通して興味、関心の拡大へと繋げていきたい |
| | 16 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している | <input type="radio"/> | | 相談支援専門員との連携やアセスメントツールを活用し、児童発達支援計画を作成している | 子どもの発育状況に応じて、個別活動、集団活動を適宜組み合わせていくようにする |

| | | | | | |
|----|---|-----------------------|--|--|---|
| | 17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | <input type="radio"/> | | 利用する子ども、活動内容、支援の流れ、職員の役割分担の確認を行い、共通理解をしている | 子どもの通所人数、活動内容に応じた職員配置、利用する教材を含め打ち合わせを行っているが、全員の参加は難しいことがある 連携が取れていないこともありますため、ホワイトボード、SNSツール等も活用し、更に情報共有できるようにしていきたい |
| 18 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | <input type="radio"/> | | 終れにてその日の支援の振り返りや連絡事項などの確認を行い、職員同士情報共有しながら支援の記録も行っている | 支援の振り返り、子どもの姿、連絡事項など共通理解を深めているが、全員参加は難しいこともある ホワイトボード、SNSツール等を活用しながら情報共有を図っていきたい |
| 19 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | <input type="radio"/> | | 毎回支援記録を取って見直し、子どもの成長や取り巻く環境の変化に合わせて支援内容や方法を検討している | 日々の支援記録を基に、モニタリングを実施し、児童発達支援計画の検証、改善に繋げていきたい |
| 20 | 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している | <input type="radio"/> | | 定期的な面談を通してモニタリングを行い、支援の達成度や満足度などを把握し、支援の方向性の確認を行っている | 保護者と、子どもの成長を確認するとともに、見直しをすることにより子どもの発育状況に沿った支援ができるようにしていく |

| | | | | | |
|--------------|----|--|---|--|---|
| 関係機関や保護者との連携 | 21 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | ○ | 児童発達支援管理責任者がサービス担当者会議に参加し、利用計画書を基に他事業所と情報共有しながら、サービス等利用計画の策定への情報提供を行っている | 今後、子どもの状況に精通した担当職員なども一緒に参加することで、より一層の充実を図っていく |
| | 22 | 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている | ○ | 相談支援員を中心とし、必要に応じて担当者会議や電話連絡・紙面での情報共有を行っている | 子ども・子育て支援等の関係者や関係機関との連携した支援はまだあまりできていないため、今後、更なる連携を深めていくべき |
| | 23 | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている | / | / | |
| | 24 | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている | / | / | |
| | 25 | 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている | ○ | 保育所や認定こども園、幼稚園から見学に来てもらう等、支援内容の情報共有と相互理解を図っている | 今年度はコロナ感染症対策により、相互間の訪問、見学はあまり行えなかったが、今後コロナの終息と共に情報共有と相互理解を更に進めたい |
| | 26 | 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている | ○ | 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解はまだ少ないが保護者を通して伝えていることはある 相談支援専門員を通して情報共有を行っている | 今後更に連携を取り、支援内容等の情報共有と相互理解を図っていきたい |
| | 27 | 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | ○ | 今年度はコロナ感染症対策により見学等の連携がほとんど図れなかつたが、紙面での連携を行っていた | 他の児童発達支援事業所との連携を深めるため、会を発足して活動していたが、今年度はコロナ感染症の影響により連携があまり図れなかつた ZOOMで会議を行うなど、できる限りで再開していきたい |
| | 28 | 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある | ○ | 通所しているほとんどの子どもは既に地域の保育所・認定こども園・幼稚園に行っており、障がいのない子どもと活動する機会が多い | 今後、必要に応じて検討していく |
| | 29 | (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している | ○ | 参加可能な限り出席したいと思っているが、会議の参加要請がない | 今後ネットワークを広げて参加できるようにしていきたい |
| | 30 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | ○ | 日頃からLINEを活用するなど、個別に子どもの状況について保護者と伝え合い共通理解を図っている | LINE公式アカウントを始めたことにより共通理解が深まつたが、登録できない保護者もいた為、今後すべての保護者と共通理解を深められる方法を検討していきたい |
| | 31 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている | ○ | 家庭で取り組みやすい方法を保護者と一緒に考え、提供している 応用行動分析学を用いた支援、アンガーマネジメント(書き作成)、フローチャートによるSSTのシートの利用などにより家庭支援を行っている | 今後、動画配信なども活用し、よりわかりやすく家庭支援プログラムを進めていきたい |
| | 32 | 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | ○ | 契約時、詳細について説明を行っている | 時々周知されていない感じがあるため、その都度丁寧に説明を行っていきたい |
| | 33 | 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている | ○ | 定期的に面談を行い、児童発達支援計画を示しながらわかりやすく支援内容について説明し、同意を得ている | 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容についても、今後保護者に更にわかりやすく説明していきたい |
| | 34 | 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | ○ | 定期的に面談を行い、保護者に対して相談及び助言を行っている ラインで、24時間相談受付をし、営業時間内に相談、助言等を行うようにしている | 定期的に相談に応じてはいるが、子ども、保護者の様子によって必要と感じたときに適時行っている 今年度はLINEでの相談が多く、安心される保護者も多かつた 今後も適切な対応を心がけていく |
| | 35 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | ○ | 今年度はコロナ感染症の拡大により茶話会等は実施できなかつた | コロナの終息と共に研修や茶話会を実施し、勉強、交流の場として提供していきたい |
| | 36 | 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している | ○ | 苦情・相談窓口の詳細は、契約書の重要事項説明書に記載し、苦情・相談が寄せられた場合は迅速かつ適切に対応できるよう取り組んでいる LINE、メール等での相談受付も行えるようしている | 苦情・相談があったときは記録し、その後迅速に対応していく 対応については職員間で共通理解を図りながら進めていきたい |
| | 37 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | ○ | 活動概要や行事予定についておたよりを発行し、毎月利用者に紙面とLINEで発信している 活動内容は週に一度、連絡ノートに貼つたり、ラインで配信したりして伝えている | 紙面でのおたよりの発行、ラインの配信をしている 活動概要、行事予定、連絡、子育てワンポイントアドバイスなども保護者に向けて発信していきたい LINEでのお便りの配信も積極的にしていきたい |

| | | | | |
|---------|---|-----------------------|--|---|
| | 38 個人情報の取り扱いに十分注意している | <input type="radio"/> | 個々に個別ファイルを作成し、使用時以外は縫付きの棚に保管することで外部に情報が漏れないように管理している 不要となった個人情報に関しては、適時シミュレーターにかけるなどの対応を徹底することで漏れがないように取り組んでいる | 個人情報の取り扱いについては、引き続き周知徹底を図っていく |
| | 39 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | <input type="radio"/> | ノートやラインを活用し、意思の疎通や情報提供を行っている 動画配信等も行い、よりわかりやすく情報伝達できるようにしている | 今後、更に保護者の個々のニーズに応じて意思の疎通が図つていけるよう配慮していきたい |
| | 40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | <input type="radio"/> | オープン当初、地域住民を招待したが、その後は行っていない 自治会の組織に加入し地域住民と交流を図っている | 今後、コロナの終息と共に地域住民を招待する等、開かれた事業運営を図っていきたい |
| 非常時等の対応 | 41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している | <input type="radio"/> | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、事業所内に掲示、各保護者に配布し、周知できるようにしている | 保護者への周知が十分に実施できていない現状があるため、非常時のマニュアルを事業所内に掲示、各保護者に配布も行っている 掲示することで、来所した際にいつでも見ることができるように周知を図っていく |
| | 42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | <input type="radio"/> | 毎月、子どもたちと一緒に避難訓練を実施している | 今後、コロナの終息と共に地域の消防署・警察署の協力、アドバイスを頂きながらすめていきたい |
| | 43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している | <input type="radio"/> | 契約時に子どもの疾病や服薬状況等を把握している てんかんについては保護者からどのような時にどのような状態になるのか聞き取りを行い、職員間で共通理解している 保護者からてんかん時の動画も見せてもらい、連絡先やその後の対応についても確認を行っている | より詳細を把握できるよう、アセスメントツールを見直し定期的に確認も行えるようにしていきたい |
| | 44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | <input type="radio"/> | 契約時にアレルギーの検査結果や保護者からの聞き取りを行い、除去食を確認している アレルギー表を作成いつつでも確認できるところに貼っている アレルギーがある場合は、一斉除去している | 食事提供はない為、医師の指示書での対応は行っていないが、保護者から聞き取りを行い、アレルゲンとなる食材がある場合は一斉除去を徹底していく |
| | 45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | <input type="radio"/> | 終礼や職員会議でヒヤリハット事例について書式を作成し、共通理解を図っている | ヒヤリハット事例を毎日確認し、研修を定期的に行うことで支援の質の向上を図っていく |
| | 46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | <input type="radio"/> | 虐待防止委員会にて年間計画を立て、毎月研修を行っている | チェックリストを作成、実施し、対応についても共通理解していきたい 定期的にチェックを行うことで改善、防止に取り組んでいきたい |
| | 47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している | <input type="radio"/> | 現在、身体拘束は行っていない やむを得ず実施する場合は保護者への確認や説明なども確實に行い、支援計画に記載していくようにする | 常に検討しながらも必要がある際は、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で記載する書式を作成・記載し、児童発達支援計画にも記載していく |

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

公表: 4年2月14日

事業所名 ソレイユキッズ津Neo

| | | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|----------|----|---|----|-----|---|---|
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | ○ | | 指導訓練室は十分なスペースが確保されている。活動によって、広すぎる場合はパーテーションなどで区切っている。 | 子どもによっては広すぎて落ち着かない様子が見られることがあるため、子どもの様子に合わせてスペースを作っていく |
| | 2 | 職員の配置数は適切である | ○ | | 職員配置数は適切であるが、必要に応じて配置数を増やしている | 職員配置数は適切であるが、日によって少ないと感じることもあるため、ゆとりのある職員配置数を確保していかたい |
| | 3 | 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている | ○ | | 指導訓練室については、タイルカーペットを敷き詰めてあり、大きい段差はない | 子どもの姿に応じ、わかりやすく構造化された環境を作っていく。玄関に少し段差があるが、必要に応じ、スライドドアが使用できるようにしてある。トイレに段差があるがステップを置いて対応している |
| 業務改善 | 4 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している | ○ | | 活動前後にミーティングの時間を設けて話し合っている。定期的に業務内容について会議を行って見直している | PDCAサイクルに広く職員が参画できるよう、目標をわかりやすく設定し、定期的に振り返りを行うようにしていかたい |
| | 5 | 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | ○ | | 保護者アンケートより保護者の意向を把握し、業務改善に努めている | 保護者アンケートだけではなく、送迎時や面談時にも保護者が意見を伝えやすい雰囲気を作ることにより意向を把握し、業務改善につなげていきたい |
| | 6 | この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか | ○ | | ホームページで公開している | 今後も年1回、アンケートを実施し、評価を公開していく。評価の公開HPを会報やLINE等で知らせていく |
| | 7 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | | ○ | | 今後、検討していかたい |
| | 8 | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | ○ | | 月に2回以上必ず内部研修、支援会議を行い、適宜外部研修にも参加し、専門性の向上に努めている | 研修の中にロールプレイを取り入れるなど更なる職員の資質の向上を目指していく |
| 適切な支援の提供 | 9 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している | ○ | | 相談支援専門員と連携を図り、子どもや保護者との面談を通して得られたニーズを分析し、児童発達支援計画の作成を行っている。より詳しく分析できるようアセスメントシートの適時修正を行っている | 様々な情報を基に、子どもの主な課題に対する支援を、保護者と一緒に考えていく。フェイスシート等を更新し、新しい情報があれば職員間で共有していく |
| | 10 | 子どもの適応行動の状況を把握するためには、標準化されたアセスメントツールを使用している | ○ | | 項目に分かれた標準化されたアセスメントツールを使用し、子どもの適応行動の状況を把握できるようにしている | アセスメントツールを活用し、必要に応じて項目や活動の見直しを行い、個々に合わせた適切な支援へとつなげていく。必要があれば適時、アセスメントツールの見直しも行っていく |
| | 11 | 活動プログラムの立案をチームで行っている | ○ | | 年間計画を立て、担当職員を中心にチームで、運動プログラムは1ヵ月ごと、手先を使った活動は1週間ごとに立案している | ミーティングの機会を増やし、チームで話し合ってより良い立案ができるようにしていく。子どもたちの発達状況に合わせた内容となるよう活動プログラムを工夫するよう努めしていく |
| | 12 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | ○ | | 運動プログラムについては3週間で変更し、残り1週はエアートランポリンを使った活動を行っている。手先を使った活動は、1週間ごとに内容を変えそれぞれの課題を決めて行っている | 子どもたちの発達状況に応じたプログラムを設定し、経験を通して興味、関心の拡大へと繋げていきたい |
| | 13 | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している | ○ | | 平日用プログラム、休日、長期休暇用プログラムを設定し、それぞれの課題を決めて支援している | 平日・休日・長期休暇、また個々の子どもの発育状況に応じた課題を設定していくよう、職員間で話し合っていかたい |
| | 14 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している | ○ | | 相談支援専門員との連携やアセスメントツールを活用し、児童発達支援計画を作成している | 子どもの発育状況に応じて、個別活動、集団活動を適宜組み合わせていく |
| | 15 | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | ○ | | 利用する子ども、活動内容、支援の流れ、職員の役割分担の確認を行い、共通理解をしている | 子どもの通所人数、活動内容に応じた職員配置、利用する教材を含め、打ち合わせを行っているが、全員の参加は難しいこともある。連携が取れないこともあるため、ホワイトボードやSNSツール等を活用し、更に情報共有していく |
| | 16 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | ○ | | 終礼にてその日の支援の振り返りや連絡事項などの確認を行い、職員同士情報共有しながら支援の記録も行っている | 支援の振り返り、子どもの姿、連絡事項など共通理解を深めているが、全員参加は難しいこともある。ホワイトボードやSNSツール等を活用しながら情報共有を図っていく |
| | 17 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | ○ | | 毎回支援記録を取って見直し、子どもの成長や取り巻く環境の変化に合わせて支援内容や方法を検討している | 日々の支援記録を基に、モニタリングを実施し、児童発達支援計画の検証、改善に繋げていきたい |

| | | | | | | |
|--|----|---------------------------------------|-----------------------|--|--|---|
| | 18 | 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している | <input type="radio"/> | | 定期的な面談を通してモニタリングを行い、支援の達成度や満足度などを把握し、支援の方向性的確認を行っている | 保護者と、子どもの成長を確認するとともに、見直しをすることでより子どもの発育状況に沿った支援ができるようにしていく |
| | 19 | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている | <input type="radio"/> | | 一日のプログラムの中で、ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている | 自立支援と日常生活の充実のための活動・創作活動・余暇の提供については組み合わせて行っているが地域交流については、なかなか交流が図れないため、今後交流を検討していく |

| | | | | | |
|--------------|----|--|-----------------------|--|---|
| 関係機関や保護者との連携 | 20 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | <input type="radio"/> | 児童発達支援管理責任者がサービス担当者会議に参加し、利用計画書を基に他事業所と情報共有しながら、サービス等利用計画の策定への情報提供を行っている | 今後、子どもの状況に精通した担当職員なども一緒に参加することで、より一層の充実を図っていく |
| | 21 | 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子供の下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている | <input type="radio"/> | 在籍校に電話をし、送迎時の注意事項や下校時刻を聞いている 行事予定など、FAXで連絡してもらう場合もある | 今後は、年間計画など詳しい情報を様々な手段で共有できるようにしていく |
| | 22 | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている | | | |
| | 23 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所との間で情報共有と相互理解を務めている | <input type="radio"/> | 相談支援専門員を通して、児童発達支援事業所、保育所、幼稚園とも少しずつ情報共有と相互理解を進めている | まだ就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園等との間での連携は少ないため、今後更に連携を取れるよう図っていきたい |
| | 24 | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している | | <input type="radio"/> まだ該当なし | 今後、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所へ移行する場合は、それまでの支援内容等の情報を提供していきたい |
| | 25 | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | <input type="radio"/> | 今年度はコロナ感染症対策により見学等の連携がほとんど図れなかつたが、紙面での連携を行っていた | 他の児童発達支援事業所との連携を深めるため、会を発足して活動していたが、今年度はコロナ感染症の影響により連携が図れなかつた ZOOMで会議を行うなど、できる限りで再開していきたい |
| | 26 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある | | <input type="radio"/> 地域交流については小集団での活動を主に行っているため、指導時間の中での実施は難しい | 放課後児童クラブや児童館との交流、障がいのない子どもとの交流や、障がいのない子どもと活動する機会はまだないため、今後交流していきたい コロナウイルスの影響により実施できなかつたが、今後終息とともに企画・実施していきたい |
| | 27 | (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している | | <input type="radio"/> 参加可能な限り出席したいと思っているが、会議の参加要請がない | どのように参加できるかわからないため、今後ネットワークを広げて参加できるよう働きかけていきたい |
| | 28 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | <input type="radio"/> | 日ごろからLINEを活用するなど、個別に子どもの状況について保護者と伝え合い共通理解を図っている | LINE公式アカウントを始めたことにより共通理解が深まつたが、登録できない保護者もいた為、今後すべての保護者と共通理解を深められる方法を検討していきたい |
| | 29 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている | <input type="radio"/> | 家庭で取り組みやすい方法を保護者と一緒に考え、提供している 応用行動分析学を用いた支援、アンガーマネジメント(書き式作成)、フローチャートによるSSTのシートの利用などにより家庭支援を行っている | 今後動画配信なども活用し、よりわかりやすく家庭支援プログラムを進めていきたい |
| 保護者への説明責任等 | 30 | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | <input type="radio"/> | 契約時、詳細について説明を行っている | 時々周知されていない感じがあるため、その都度丁寧に説明を行っていきたい |
| | 31 | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | <input type="radio"/> | 定期的に面談を行い、保護者に対して相談及び助言を行っている | 定期的に相談に応じてはいるが、子ども、保護者の様子によって必要を感じたときに適時行っている 今年度はLINEでの相談が多く、安心される保護者も多かつた 今後も保護者のニーズに応じた適切な対応を心がけていく |
| | 32 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | <input type="radio"/> | 今年度はコロナ感染症の拡大により茶話会等は実施できなかつた | コロナの終息と共に研修や茶話会を実施し、勉強、交流の場として提供していきたい |
| | 33 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している | <input type="radio"/> | 苦情・相談窓口の詳細は、契約書の重要事項説明書に記載している。苦情・相談が寄せられた場合は、迅速かつ適切に対応できるように取り組んでいる LINEメール等での相談受付も行えるようしている。 | 苦情・相談があったときは記録し、その後迅速に対応していく 対応については職員間で共通理解を図りながらすすめていきたい |
| | 34 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | <input type="radio"/> | 活動概要や行事予定についておたよりを発行し、毎月利用者に紙面とLINEで発信している 活動内容は週に一度、連絡ノートに貼つたり、LINEで配信したりして伝えている | 紙面でのおたよりの発行に併せてLINEの配信をしている 活動概要、行事予定、連絡、子育てワンポイントアドバイスなども保護者に向けてわかりやすく発信していきたい。 LINEでのおたよりの配信も積極的に行っていきたい。 |
| | 35 | 個人情報に十分注意している | <input type="radio"/> | 個々に個別ファイルを作成し、使用時以外は鍵付きの棚に保管することで外部に情報が漏れないように管理している 不要となった個人情報に関しては、適時シュレッダーにかけるなどの対応を徹底することで漏れないように取り組んでいる | 個人情報の取り扱いについては、引き続き周知徹底を図っていく |
| | 36 | 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | <input type="radio"/> | ノートやLINEを活用し、意思の疎通や情報提供を行っている 動画配信等も行い、よりわかりやすく情報伝達できるようにしている | 今後、更に保護者の個々のニーズに応じて意思の疎通を図っていくよう配慮していきたい |
| | 37 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | | <input type="radio"/> オープン当初、地域住民を招待したが、その後は行っていない 自治会の組織に加入し地域住民と交流を図っている | 今後、コロナの終息と共に地域住民を招待し、開かれた事業運営を図っていきたい |

| | | | | | |
|---------|----|--|-----------------------|---|--|
| 非常時等の対応 | 38 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している | <input type="radio"/> | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、事業所内に掲示、各保護者に配布し、周知できるようにしている | 保護者への周知が十分に実施できていない現状があるため、非常時のマニュアルを事業所内に掲示、各保護者に配布も行っている 掲示することで、来所した際にいつでも見ことができるように周知を図っていく |
| | 39 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | <input type="radio"/> | 毎月、子どもたちと一緒に避難訓練を実施している | 今後、コロナの終息と共に地域の消防署、警察署の協力、アドバイスを頂きながらすすめていきたい |
| | 40 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | <input type="radio"/> | 虐待防止委員会にて年間計画を立て、毎月研修を行っている | チェックリストの作成、実施し対応についても共通理解し、定期的にチェックを行うことで改善、防止に取り組んでいきたい |
| | 41 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している | <input type="radio"/> | 現在、身体拘束は行っていない。やむを得ず実施する場合は保護者への確認や説明なども確実に行い支援計画に記載していく | 常に検討しながらも必要がある際は、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で記載する書式を作成・記載し、児童発達支援計画にも記載していく |
| | 42 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | <input type="radio"/> | 契約時にアレルギーの検査結果や保護者からの聞き取りを行い、除去食を確認している。アレルギー表を作成しいつても確認できるところに貼っている。アレルギーがある場合は、一斉除去している | 食事提供はない為、医師の指示書での対応は行っていないが、保護者から聞き取りを行い、アレルゲンとなる食材がある場合は一斉除去を徹底していきたい |
| | 43 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | <input type="radio"/> | 終礼や職員会議でヒヤリハット事例について書式を作成し、共通理解を図っている | ヒヤリハット事例を毎日確認し、研修を定期的に行うことで支援の質の向上を図っていきたい |

参考様式A3(自己評価等関係)

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和4年2月14日

事業所名 ソレイユキッズ津Sol

保護者等数(児童数) 51 回収数 40 割合 78.4 %

| | チェック項目 | はい | どちらともいえない | いいえ | わからない | 今年のご意見 | ご意見を踏まえた対応 |
|----------|---|----|-----------|-----|-------|-----------------------|---|
| 環境・体制整備 | 1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか | 39 | 1 | | | | 運動療育ができる十分なスペースが確保されている活動や個々の子どもの様子に応じてパーテーションなどで区切っている |
| | 2 職員の配置数や専門性は適切であるか | 31 | 1 | 1 | 7 | ・職員の数が少ないと思う | 職員配置数は適切である。子どもの様子によつては職員が足りないと感じることがあるため、日により配置数を増やすようにしているが、多めの職員の確保ができない日もある HPで職員の自己紹介を行つて、ライン公式アカウント等を活用し、さらに保護者への周知を図つてきたい |
| | 3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境*1になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか | 37 | | | 2 | 未回答1 | 限られた環境の中で、できる限り構造化や視覚支援を用いて、子どもたちにわかりやすいように配慮している |
| | 4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか | 39 | | | | 1 | 毎日活動前に清掃・消毒・喚起を行つており清潔に保たれている運動を行うため、けがをしないようカバー・マットなど設置している |
| 適切な支援の提供 | 5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画*2が作成されているか | 37 | 2 | | | 1 | ・とてもわかりやすく示していただき、具体的で家で参考になります |
| | 6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか | 29 | 4 | | 7 | | 児童発達支援ガイドラインに基づき一人一人の子どもの発達段階や状況により必要な支援を選択し、その上で具体的な支援内容を設定している。具体的な内容について更にわかりやすく提示できるようにしていく |
| | 7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか | 36 | 3 | | | 1 | ・成長したこともあり、数字、文字などを取り入れて頂けるとありがとうございます |
| | 8 活動プログラム*3が固定化しないよう工夫されているか | 39 | | | 1 | | 運動プログラムについては概ね4週間で変更し活動を行つてはいるが、子どもの様子に応じて随時変えていきながら進めている手先を使った活動は、1週間ごとに内容を変えてそれぞれの課題を決めて行つてはいる |
| 保護者への説明等 | 9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか | 14 | 3 | 9 | 14 | | 地域交流については、個別の活動を中心に行つてはいるため、指導時間の中での実施は難しいが、今後実施していくよう検討していきたい |
| | 10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか | 37 | | 1 | 未回答1 | | 契約時、詳細につき説明を行つてはいるが、より周知できるよう適宜説明を行つてはいる |
| | 11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか | 31 | 1 | | 6 | 未回答2 | 定期的に面談を行い、児童発達支援計画を示しながらわかりやすく支援内容について説明している 周知されていないようにも感じるため、今後更に周知を図つてはいる |
| | 12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアメント・トレーニング*4等)が行われているか | 21 | 3 | 7 | 9 | ・面談にてアドバイスいただけた良かったです | 家庭で取り組みやすい方法を保護者と一緒に考え、提供している応用行動分析学を用いた支援、アンガーマネジメント(書式作成の上)、フローチャートによるSSTのシートの利用などにより、個々に家庭支援を行つてはいる 今年もコロナ感染症の対策としてあまり取り組めなかつたため、今後、コロナの終息と共に更に保護者向け勉強会の開催を計画していきたい |

| | | | | | | | | |
|----------|----|---|----|---|----|------------|--|---|
| 保護者への説明等 | 13 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか | 33 | 5 | 2 | ・面談にてできた | 連絡帳や送迎時に伝えるようしているが、あまり話せる時間がない時もある。ラインでも共通理解を図れるようにしていきたい | |
| | 14 | 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか | 33 | 4 | 1 | 2 | 定期的に面談を行い、保護者に対して相談及び助言を行っているが、今年度はコロナ感染症が拡大し、できない時期もあった。ラインでの相談も随時受けているが、より保護者に周知できるよう取り組んでいきたい | |
| | 15 | 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか | 4 | 6 | 18 | 12 | ・コロナが落ち着いたら開催されるとても嬉しい ・コロナ等の問題もあり難しいですね 今年はコロナ感染症の拡大により実施できなかった コロナの終息と共に研修・茶話会を実施し、勉強・交流の場としても提供していきたい | |
| | 16 | 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか | 34 | 2 | | 4 | 苦情・相談受付窓口の詳細は、契約書の重要事項説明書に記載している 苦情・相談が寄せられた場合は、迅速かつ適切に対応している。今年は更にラインでの相談受付も随時行っている | |
| | 17 | 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか | 36 | 3 | | 1 | ノートを活用し、意思の疎通や情報提供を行っているが、更にラインを活用し、保護者や子どもにとってよりわかりやすく活動内容を視覚的にも動画で知らせていくようにする | |
| | 18 | 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか | 39 | | | 1 | 年に一度ホームページにて公表しているが、より周知できるよう3月の会報(毎月のおたより)にて保護者に知らせるようにしていきたい。行事予定は毎月のおたよりで、活動内容は週に一度ノートに貼って伝えている。コロナによる休校時よりライン公式アカウントを作成し、連絡・情報・相談を行っている | |
| | 19 | 個人情報の取り扱いに十分注意されているか | 39 | | | 1 | 個人情報に関しては、個々に個別ファイルを作成し、使用時以外は鍵付きの棚に保管することで外部に情報が漏れないように管理している。不要となった個人情報に関しては、適時シュレッダーにかけるなどの対応を徹底することで漏れがないように取り組んでいる。個々の情報については個別で対応をしている | |
| 非常時等の対応 | 20 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。 | 34 | 1 | | 4 未回答1 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定している。事業所出入り口に掲示し、又保護者に配布することで保護者への周知を図っている | |
| | 21 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか | 27 | 1 | 1 | 10 未回答1 | 月1回行っている。全ての曜日の子どもたちが避難訓練に参加できるようにしているが、曜日ごとに実施し、毎月のお便りでお知らせしている | |
| 満足度 | 22 | 子どもは通所を楽しみにしているか | 35 | 2 | | 2 未回答1 | ・とても楽しそうに通っています 感謝感謝です！ ・とても楽しみにしています ・楽しいと言っています ・今日はソレイユさんの日だね！と楽しみに通っています ・ものすごく楽しみにしてます ・楽しみすぎて1週間待ちきれません！！親子ともに大変満足です | 来所すると楽しそうだが、疲れていたり、気分次第では行き渋りが見られることがある。今後より楽しみになるよう、わかりやすく知らせていくようにする |
| | 23 | 事業所の支援に満足しているか | 36 | 2 | 1 | 1 未回答1 | ・送迎をお願いしたい ・文字などの練習をしてほしい | 更に子どもたちが楽しく通えるよう一人一人に配慮し、今まで以上に満足して頂けるよう努めています 時間、職員数、送迎車両数など、物理的に送迎希望に答えられないこともあります、最大限工夫して対応していきたい |

*1 この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすること。

*2 児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*3 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

*4 保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障がいの特性を踏まえた褒め方等を学ぶこと。子どもが適切な行動を獲得することを目指している。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年2月14日

事業所名

ソレイユキッズ津Sol

| | | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|----------|----|--|----|-----|---|--|
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | ○ | | 指導訓練室は適度なスペースが確保されている。活動によってはパーテーションなどで区切っている | 子どもの様子に合わせて、適宜パーテーションで区切ったり、スペースを作ったりするなど工夫している |
| | 2 | 職員の配置数は適切である | ○ | | 職員配置数は適切であるが、必要に応じて配置数を増やしている | 職員配置数は適切であるが、日によって少ない感じもあるため、ゆとりのある職員配置数を確保していかたい |
| | 3 | 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている | ○ | | 限られた環境の中で、できる限り構造化や視覚支援を用いて、子どもたちにわかりやすいよう配慮している | 子どもの姿に応じ、更にわかりやすく構造化された環境を作っていく |
| | 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている | ○ | | 毎日活動前に清掃・消毒・換気を行っており清潔に保たれている 運動をするため、けがをしないようカバー・マットなど設置している | 子どもの状態・活動に合わせてパーテーション等で空間を作っている マットや布団・ミラーボール等を使用しての居心地の良い環境づくりを行っているが、更に充実させていきたい。コロナ対策と共に清潔を保つよう心がけていく |
| 業務改善 | 5 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している | ○ | | 活動前後にミーティングの時間を設けて話し合っている 定期的に業務内容について会議を行い、見直しをしている | PDCAサイクルに広く職員が参画できるよう、目標をわかりやすく設定し、定期的に振り返りを行うようにしていきたい |
| | 6 | 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | ○ | | 保護者アンケートより保護者の意向を把握し、業務改善に努めている | 保護者アンケートだけではなく、送迎時や面談時にも保護者が意見を伝えやすい雰囲気を作ることにより意向を把握し、業務改善につなげていきたい |
| | 7 | 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している | ○ | | ホームページで公開している | 今後も年1回、アンケートを実施し、評価を公開していく 評価の公開HPを会報やLINE等で知らせていく |
| | 8 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | | ○ | | 今後、検討していきたい |
| | 9 | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | ○ | | 月2回以上、必ず内部研修と支援会議を行い、適宜外部研修にも参加し専門性の向上に努めている | 研修の年間計画を立てて、研修を行っている 実践に役立つような研修を行うようにし、職員の資質の向上を目指していく |
| 適切な支援の提供 | 10 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している | ○ | | 相談支援専門員と連携を図り、子どもや保護者との面談を通して得られたニーズを分析し、児童発達支援計画の作成を行っている。より詳しく分析できるようアセスメントシートの適時修正を行っている | 様々な情報を基に、子どもの主な課題に対する支援を保護者と一緒に考えていく フェイスシートなどを更新し、新しい情報があれば職員間で共有していく |
| | 11 | 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している | ○ | | 項目に分かれた標準化されたアセスメントツールを使用し、子どもの適応行動の状況を把握できるようにしている | アセスメントツールを活用し、必要に応じて項目や活動の見直しを行い、個々に合わせた適切な支援へとつなげていく 必要があれば適時、アセスメントツールの見直しも行っていく |
| | 12 | 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている | ○ | | 児童発達支援ガイドラインに基づき一人一人の子どもの発達段階や状況により必要な支援を選択し、その上で具体的な支援内容を設定している | 児童発達支援ガイドラインに基づく考え方や具体的な支援の在り方については、今後もガイドラインの支援内容の理解を深め、さらに具体的な支援内容についてわかりやすく提示できるようにしていきたい |
| | 13 | 児童発達支援計画に沿った支援が行われている | ○ | | 個々の児童発達支援計画に基づき支援していく | 子ども一人一人の児童発達支援計画に基づき、職員、保護者で共通理解を図り、支援を行っていく |
| | 14 | 活動プログラムの立案をチームで行っている | ○ | | 年間計画を立て、担当職員を中心にチームで、運動プログラムは1ヵ月ごと、手先を使った活動は1週間ごとに立案している | ミーティングの機会を増やし、チームで話し合ってより良い立案ができるようにしていく 子どもたちの発達状況に合わせた内容となるよう活動プログラムを工夫するよう努めていく |
| | 15 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | ○ | | 運動プログラムについては4週間で変更している。手先を使った活動は、1週間ごとに内容を変え、それぞれの課題を決めて行っている。活動に使用するブランコの種類を1週間ごとに変えている。 | 子どもたちの発達状況に応じたプログラムを設定し、経験を通して興味、関心の拡大へと繋げていきたい |
| | 16 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している | ○ | | 相談支援専門員との連携やアセスメントツールを活用し、児童発達支援計画を作成している | 子どもの発育状況に応じて、個別活動、集団活動を適宜組み合わせていく |
| | 17 | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | ○ | | 利用する子ども、活動内容、支援の流れ、職員の役割分担の確認を行い、共通理解をしている | 子どもの通所人数、活動内容に応じた職員配置、利用する教材を含め打ち合わせを行っているが、全員の参加は難しいこともある 連携が取れていないこともあるため、ホワイトボード・SNSツール等も活用し、更に情報共有できるようにしていきたい |

| | | | | | |
|--|--|-----------------------|--|--|---|
| | 18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | <input type="radio"/> | | 終礼にてその日の支援の振り返りや連絡事項などの確認を行い、職員同士情報共有しながら支援の記録も行っている | 支援の振り返り、子どもの姿、連絡事項など共通理解を深めているが、全員参加は難しいことがある ホワイトボード・SNSツール等を活用しながら情報共有を図っていきたい |
| | 19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | <input type="radio"/> | | 毎回支援記録を取って見直し、子どもの成長や取り巻く環境の変化に合わせて支援内容や方法を検討している | 日々の支援記録を基に、モニタリングを実施し、児童発達支援計画の検証、改善に繋げていきたい |
| | 20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している | <input type="radio"/> | | 定期的な面談を通してモニタリングを行い、支援の達成度や満足度などを把握し、支援の方向性の確認を行っている | 保護者と、子どもの成長を確認するとともに、見直しすることでより子どもの発育状況に沿った支援ができるようにしていく |

| | | | | | |
|--------------|----|--|---|--|--|
| 関係機関や保護者との連携 | 21 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | ○ | 児童発達支援管理責任者がサービス担当者会議に参加し、利用計画書に基づいて事業所と情報共有しながら、サービス等利用計画の策定への情報提供を行っている | 今後、子どもの状況に精通した担当職員なども一緒に参加することで、より一層の充実を図っていく |
| | 22 | 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている | ○ | 相談支援員を中心とし、必要に応じて担当者会議や電話連絡・紙面での情報共有を行っている | 子ども・子育て支援等の関係者や関係機関との連携した支援はまだあまりできていないため、今後、更なる連携を深めてていきたい |
| | 23 | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている | | | |
| | 24 | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている | | | |
| | 25 | 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている | ○ | 保育所や認定こども園、幼稚園から見学に来てもらう等、支援内容の情報共有と相互理解を図っている | 今年度はコロナ感染症対策により、相互間の訪問、見学はあまり行えなかった。今後コロナの終息と共に情報共有と相互理解を更に進めてていきたい |
| | 26 | 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている | ○ | 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解はまだ少ないが保護者を通して伝えていることはある。相談支援専門員を通して情報共有を行っている | 今後更に連携を取り、支援内容等の情報共有と相互理解を図っていかたい |
| | 27 | 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | ○ | 今年度はコロナ感染症対策により見学等の連携がほとんど図れなかつたが、紙面での連携を行っていた | 他の児童発達支援事業所との連携を深めるため、会を発足して活動していたが、今年度はコロナ感染症の影響により連携が図れなかつた ZOOMで会議を行うなど、できる限りで再開していかたい |
| | 28 | 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある | ○ | 通所しているほとんどの子どもは既に地域の保育所・認定こども園・幼稚園に行っており、障がいのない子どもと活動する機会が多い | 今後、必要に応じて検討していく |
| | 29 | (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している | ○ | 参加可能な限り出席したいと思っているが、会議の参加要請がない | 今後ネットワークを広げて参加できるようにしていかたい |
| | 30 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | ○ | 日頃からLINE公式アカウントを活用し、個別に子どもの状況について保護者と伝え合い共通理解を図っている | LINE公式アカウントの方より共通理解が深まっていると感じるが、更に子どもの様子をそれぞれの保護者のニーズに応じて伝えていくよう細やかな対応を図っていかたい |
| | 31 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアント・トレーニング等)の支援を行っている | ○ | 家庭で取り組みやすい方法を保護者と一緒に考え、提供している。応用行動分析学を用いた支援、アンガーマネジメント(書き式作成)、フローチャートによるSSTのシートの利用などにより家庭支援を行っている | 今後、動画配信なども活用し、よりわかりやすく家庭支援プログラムを進めていかたい |
| | 32 | 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | ○ | 契約時、詳細について説明を行っている | 時々周知されていないと感じることがあるため、その都度丁寧に説明を行っていかたい |
| | 33 | 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている | ○ | 定期的に面談を行い、児童発達支援計画を示しながらわかりやすく支援内容について説明し、同意を得ている | 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容についても、今後保護者に更にわかりやすく説明していかたい |
| | 34 | 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | ○ | 定期的に面談を行い、保護者に対して相談及び助言を行っている ラインで、24時間相談受付を行い、営業時間内に相談、助言等を行えるようにしている | 定期的に相談に応じてはいるが、子ども、保護者の様子によって必要と感じたときに適時行っている 今年度はLINEでの相談が多く、安心される保護者も多かった 今後も保護者のニーズに応じた適切な対応を心がけていかたい |
| | 35 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | ○ | 今年度もコロナ感染症の拡大により茶話会等は実施できなかった | コロナの終息と共に研修や茶話会を実施し、勉強、交流の場として提供していかたい |
| | 36 | 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している | ○ | 苦情・相談窓口の詳細は、契約書の重要事項説明書に記載し、苦情・相談が寄せられた場合は迅速かつ適切に対応できるよう取り組んでいる LINEメール等での相談受付も行えるようにしている | 苦情・相談があったときは記録し、その後迅速に対応していく 対応については職員間で共通理解を図りながら進めたい |
| | 37 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | ○ | 活動概要や行事予定についておたよりを発行し、毎月利用者に紙面とLINEで発信している 活動内容は週に一度、連絡ノートに貼ったり、ラインで配信したりして伝えている | 紙面でのおたよりの発行に合わせてラインでのお便りの配信も積極的に行っていかたい 活動概要、行事予定、連絡、子育てワンポイントアドバイスなども保護者に向けてわかりやすく発信していかたい |
| | 38 | 個人情報の取扱いに十分注意している | ○ | 個々に個別ファイルを作成し、使用時以外は鍵付きの棚に保管することで外部に情報が漏れないように管理している 不要となった個人情報に関しては、適時シュレッダーにかけるなどの対応を徹底することで漏れがないように取り組んでいる | 個人情報の取り扱いについては、引き続き周知徹底を図っていく |

| | | | | | |
|----|---|-----------------------|-----------------------|---|---|
| | 39 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | <input type="radio"/> | | ノートやラインを活用し、意思の疎通や情報提供を行っている 動画配信等も行い、よりわかりやすく情報伝達できるようにしている | 今後、保護者の個々のニーズに応じて更に意思の疎通を図つていけるよう配慮していきたい |
| 40 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | | <input type="radio"/> | コロナの時期にオープンしたため、地域の住民を招待できなかつた 自治会の組織に加入し地域住民と交流を図っている | 今後、コロナの終息と共に地域住民を招待するなど、開かれた事業運営を図つていきたい |

| | | | | | |
|---------|----|--|-----------------------|--|--|
| 非常時等の対応 | 41 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している | <input type="radio"/> | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、事業所内に掲示、各保護者に配布し、周知できるようにしている | 保護者への周知が十分に実施できていない現状があるため、非常時のマニュアルを事業所内に掲示、各保護者に配布も行っている 掲示することで、来所した際にいつでも見ることができるようにし周知を図っていく |
| | 42 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | <input type="radio"/> | 毎月、子どもたちと一緒に避難訓練を実施している | 今後、コロナの終息と共に地域の消防署・警察署の協力、アドバイスを頂きながらすすめていきたい |
| | 43 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している | <input type="radio"/> | 契約時に子どもの疾病や服薬状況等を把握している てんかんについては保護者からどのような時にどのような状態になるのか聞き取りを行い、職員間で共通理解している 保護者からてんかん時の動画などあれば見せてもらい、連絡先やその後の対応についても確認を行うようにしている | より詳細を把握できるよう、アセスメントツールを見直し定期的に確認も行えるようにしていきたい |
| | 44 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | <input type="radio"/> | 契約時にアレルギーの検査結果や保護者からの聞き取りを行い、除去食を確認している アレルギー表を作成しいつでも確認できるところに貼っている アレルギーがある場合は、一斉除去している | 食事提供はない為、医師の指示書での対応は行ってないが、保護者から聞き取りを行い、アレルゲンとなる食材がある場合は一斉除去を徹底していきたい |
| | 45 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | <input type="radio"/> | 終礼や職員会議でヒヤリハット事例について書き式を作成し、共通理解を図っている | ヒヤリハット事例を毎日確認し、研修を定期的に行うことで支援の質の向上を図っていきたい |
| | 46 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | <input type="radio"/> | 虐待防止委員会を立ち上げ年間計画を立て毎月研修を行っている | チェックリストを作成、実施し、対応についても共通理解し、定期的にチェックを行うことで改善、防止に取り組んでいきたい |
| | 47 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している | <input type="radio"/> | 現在、身体拘束は行っていない やむを得ず実施する場合は保護者への確認や説明なども確実に行い、支援計画に記載していく | 常に検討しながらも必要がある際は、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で記載する書式を作成・記載し、児童発達支援計画にも記載していく |